



チータはどうして走るのが速いの

速く走るための体のつくりができています

チータの体は、小さい頭、細くて長い足、胸や足の筋肉が強く、ひきしまったどう体、しなやかに曲がる背骨など、速く走ることができる、つくりになっています。

体中が筋肉のかたまりで、小さい頭で風を切り、やわらかい背骨で、全身をばねのようにのばしたり縮めたりしながら、全速力で走ります。

チータは、ネコの仲間に入ります。ふつうネコは、つめをしまっていて、必要なときだけつめを出します。でも、チータのつめは、いつも出したままです。つめは、すごいスピードで走るとき、地面につきささって、スパイクの役目をします。

チータは短きよりでは、いちばん足が速い

チータが700メートル走る時間をはかったら、22.4秒だったというデータがあります。これを時速で計算すると、112.5キロメートルになります。チータは、全身をばねのようにして走るので、すぐつかれてしまい、獲物を追いかけるときも、最高で500メートル以上は続けて走れません。チータがすごいのは、スタートして2秒後には、時速で72キロメートルも出せることです。これは、レーシングカーでも、まねができないスピードです。さらに、すごいのは、もうスピードで走っていたチータが、瞬間的に止まることができる点です。時速100キロメートルも出している自動車を、止めようとして急ブレーキをかけても、実際に止まるのは100メートルも先の地点になります。

野性のチータは、獲物にできるだけ近づき、にげる獲物を100～200メートル以内でつかまえないければ、かりは失敗で、成功率は50パーセント以下といわれています。

(監修・今泉 忠明)

